ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2012.3.20
28

春期企画展

発掘調査最前線
ー速報！ 北区の遺跡ー

発掘風景（サンシャイン60を望む）
西ヶ原貝塚にて／2008年

会期　2012年3月17日(土)～5月6日(日)
休館日　毎週月曜日(ただし4月30日を除く)、5月1日
開館時間　午前10時～午後5時
会　場　特別展示室・ホワイエ

観覧無料

KITA CITY ASUKAYAMA MUSEUM

春期企画展

発掘調査最前線 ―速報！北区の遺跡―

武蔵野台地と眼下に拡がる沖積地という地勢に恵まれた北区には、旧石器時代から連綿と人々の活動が繰り返され、多くの遺跡が残されています。江戸時代の北区域が近郊農村で江戸御府内のような都市開発を受けなかったため、とくに原始古代の遺跡が壊されず良好に存在します。こうした遺跡の存在や内容が解明される端緒となったのは、昭和57年（1982）の東北新幹線上野乗入れ工事や滝野川体育館一帯の再開発事業に伴う大規模な発掘調査が始まりです。それから30年が経ちましたが、この間に埋蔵文化財保護行政の下で数多くの発掘調査が実施され、新発見の遺跡や出土品がありました。博物館に常設展示されている考古資料の多くは、それら出土品の一部です。近年、団地建替えや区画整理などの事前の発掘調査が東京都埋蔵文化財センターによって行われています。また、個人住宅や民間開発等の発掘調査は、区教育委員会が担当しています。その成果は、予想もしなかった新発見が目白押しで、北区の歴史に新たな一頁を加えるものとなるでしょう。今回の企画展では、発掘調査の最新情報を速報し、北区の地中に眠る先人の足跡を分かりやすく紹介します。飛鳥山の散策がてら、ぜひお立ち寄りください。

御殿前遺跡出土須恵器（7世紀後半）

1. 講演会「掘った人が話す遺跡ア・ラ・カルト」

発掘調査を担当した方6名が2回に分けて講演します（※2回連続で参加可能な方）。

日時：①4月15日（日）
②4月22日（日）
いずれも午後1時30分～4時30分

会場：当館講堂

講師：東京都埋蔵文化財センター研究員ほか

定員：80名（抽選）

申込：往復はがき3月30日（金）必着（インターネットも可）
※インターネットでの申込詳細については当館までお問い合わせください。

①4月15日（日）
1. 西ヶ原貝塚…西澤 明氏（東京都埋蔵文化財センター）
2. 道合（みちあい）遺跡…飯塚武司氏（東京都埋蔵文化財センター）
3. 道合遺跡…丹野雅人氏（東京都埋蔵文化財センター）

②4月22日（日）
1. 田端西台通遺跡…松崎元樹氏（東京都埋蔵文化財センター）
2. 中里峡上（なかざとはけうえ）遺跡…土屋健作氏（共和開発株式会社）
3. 御殿前遺跡…坂上直嗣氏（大成エンジニアリング）

2. 企画展ミュージアム・トーク

日時：①3月24日（土）
②4月8日（日）
いずれも午後1時30分～2時30分

会場：当館特別展示室

講師：当館学芸員

定員：各30名（先着順）

申込：当日、午後1時から整理券を配布します。

＜問い合わせ＞

〒114-0002東京都北区王子1－1－3　北区飛鳥山博物館
Tel03-3916-1133　Fax03-3916-5900　月曜休館

Voice

「お客様に支えられ成長していく展示」

秋期企画展「天明以来ノ大惨事」も閉会して一段落つきました。毎回のことですが、冷や汗の連続で後悔しきりです。展示は準備期間もさることながら開催してから大変なことが待ち受けています。恥を覚悟でお話ししてみましょう。会場では日々貴重なご指摘を観覧者の皆様から頂戴します。特にいわゆる誤植！これが一番大きな存在です。気が昂（たかぶ）っている設営時には気づかなかった誤字や事実誤認等が五月雨式（さみだれ）に発覚します。その都度表現を正した上、最少の字数でペタ貼りと称する修正用のテープを製作し、パネル等を繕（つくろ）っていくのです。同時に図録中の記載が連動している際も修正していかねばなりません。図録ではその都度ペタ貼りというわけにもいきませんので、冊子に挟む正誤表の修正箇所を1行ずつ増やしていきます。こうした作業が会期後半まで続き、ようやく最終版の展示解説文に育ちます。当初安易に1、2行で済ませていた図録の正誤表も最後には10行近くの充実したものになります。誤りがあった時は本当に学芸員としての未熟さを痛感します。また、閉会間際で修正しきれない時には申し訳ない気持ちで一杯になります。ご指摘いただいたお客様方にはただ感謝するばかりで、次回こそはと誓う私です。（中野）

最古の住民のおはなし
―旧石器時代の北区―

鈴木　直人（当館学芸員）

大地・水・人

私たちの暮らす北区にはいつごろから人が住み始めたのでしょうか。どんな暮らしをしていたのでしょうか。日本の歴史における最も古い時代は旧石器時代ですが、北区においてもこの時代の遺跡が発見されています。北区にいつごろから人が住み始めていたかの答えは、この旧石器時代の遺跡の中にあるようです。北区内で発見されたこの時代の遺跡は他の時代に比べてその数は少なく８遺跡を数えるのみですが、その中の赤羽台遺跡の発掘調査から大きな発見がありました。この遺跡は東北新幹線開通に先立って昭和57年（1982）から発掘調査が行われたもので、八幡神社地区において関東ローム層内の旧石器時代の調査を行ったところ、いくつかの層で石器が発見されました。自然に堆積した地層の中においては、より深い地層から出土した石器が最も古いということがいえます。上から順に掘り進めた結果、立川ローム第Ｘ層と呼ばれる地層から１点の石器が出土しました。地表面からおよそ3m。この地層が石器を出土した最も深い層でした。この立川ローム第Ｘ層の年代はというと、今からおよそ3万年前ということが判明しています。つまり、現在の北区の地には約３万年前には人びとが住んでいたということが明らかになったのです。石器の種類は「スクレイパー」。獣の皮をなめす道具です。

それでは旧石器時代の暮らしはどのようなものだったのでしょう。かれらの暮らしを語るために、当時の環境に触れてみたいと思います。当時の地形は今と大きく異なっていたようです。現代の東京低地とよばれる低い部分は平らな地面ですが、当時は大きな谷がありました。どれほどの規模かというと、台地との比高差はおよそ35m。台地の縁に立つとはるか下方に大きな川が流れていたのが見えたと思います。また、旧石器時代は最終氷期と呼ばれた今よりも寒い時代でした。現在の北区の植生とは大きく異なり、カラマツやモミなどの針葉樹の林が広がっていたようです。そして、そこにはオオツノジカやナウマンゾウなどが棲んでいたと考えられます。地質の調査や考古学の発掘調査はこのような環境を推定するデータを提供してくれます。それではこのような環境の中で旧石器人はどのような暮らしをしていたのかというと、それは遺跡から出土する石器が明らかにしてくれます。残念ながら立川ローム第Ｘ層からはスクレイパー以外の石器は見つかりませんでした。しかし、他の地層から出土した石器や、北区外の遺跡の例などを参考にしてみると、どうやら槍を使って狩猟を行う、そんな暮らしをしていたことが分かっています。かれら旧石器人は大型の獣を追って移動しながら暮らす、狩猟民だったと考えられています。

３ｍ下の土の中から発見された1点の石器が、この地に３万年前から人が暮らしていたことを教えてくれました。また、その他の地層から出土した石器などからは旧石器時代の暮らしを垣間見ることが出来ました。でも、わかったことはほんの一部です。まだまだ北区の土の中には歴史を明かす鍵が眠っているのです。

北区最古の住民の道具「スクレイパー」
当館常設展示資料

この展示に注目

『オボエテマスカ？ ―あの暮らし・この道具―』

…思い出のための空間づくり

友人などと思い出話に花を咲かせることは楽しいものですが、昨今は「昔のことを話すのは年を取った証拠」と考えて、控える方も多いのではないでしょうか。しかし、特に高齢者にとって、思い出を語ることは情緒の安定や意欲向上、また認知症予防につながることがわかってきています。そこで今回のテーマ展示は回想による高齢者ケアの手法である「回想法」を取り入れた、いわば「思い出すため」の展示としておこないます。

しかし、なぜ「高齢者ケア」と「博物館」が結びつくのかと疑問に思う方も少なくはないでしょう。それは博物館が所蔵する古い時代の生活用具や写真などが、回想を引き出す上で非常に有効な素材となるからです。当館がこれまで実施してきた高齢者施設での出張講座においても、持参した生活用具類は毎回その力を発揮してくれました。

今回の展示でも、もちろん主役は生活用具類です。対象として想定した年齢層はいわゆる昭和一ケタ生まれ。その年代の方々が幼少期から青年期にかけての時代、つまり戦前から昭和30年代頃までに使われていたモノが中心となります。また、会場は当館の常設展示室内にある水塚の復元家屋を活用します。大正期頃に設定して再現された復元家屋を会場とすることで、展示に臨場感をもたらすことが期待できます。

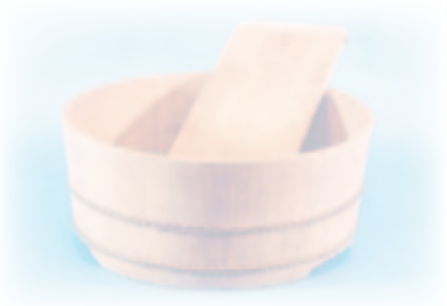
この展示で最大の問題となるのが「聞き手」の不在です。通常、回想法では訓練を受けた聞き手がリーダーとなり、参加者の思い出話を引き出していくのです。そこで、今回は展示パネル類を「聞き手」に置き換え、解説文をメインに記すのではなく、見学者への問いかけとなる質問を大きく示すことにしました。各パネルにはごく短い解説文を付記しますが、それも質問だけでは思い出せなかった時に記憶の糸口としていただくためです。

当館にとって、この展示は資料を今に活かすための新たな試みとなります。とはいえ、「昔の暮らし」と一口にいうものの、生まれ育った環境や積み重ねてきた生活は一人ひとり全く異なりますので、展示に対してどのような反応をいただけるのか、不安でもあり、また楽しみでもあります。

まずは、（博物館の堅苦しい考えはともかく）ご高齢の方だけでなく、映画「三丁目の夕日」などを通して知らないはずの時代に郷愁を感じる若い方々にも、かつての暮らしの匂いや懐しさを感じていただける空間になれば、と願っています。（久保埜）

＜開催情報＞

会　期：3月17日（土）～5月27日（日）
会　場：常設展示室内
「荒川と共に生きるくらし」コーナー内
観覧料：65歳以上 150円（4/1～）／
一般 300円／小中高 100円
※常設展示観覧料として



ただいま準備中

特別展覧会

ドナルド・キーン展
―私の感動した日本―

当館では、今年の5月19日（土）から6月24日（日）を会期として、ドナルド・キーン氏の半生と日本文化研究に関する特別展覧会の開催を予定しています。

この展覧会は、北区西ケ原在住のキーン氏（北区名誉区民・文化勲章受章・勲二等旭日重光章受章・コロンビア大学名誉教授）の70年以上もの長きにわたる日本文化の紹介と日本文学研究の足跡をご紹介するものです。

展示は、ニューヨークで貿易商の家に生まれたキーン氏のご幼少のころに芽生えた異文化への憧れから始まり、アーサー・ウェイリー訳『源氏物語』への感動にはじまる日本文学への深い関心と、マーク・ドーレンや角田柳作の指導を得てコロンビア大学での真摯な学究生活へと続きます。途中、悲惨な戦争体験を経て、生の日本人との心の底からの共鳴と交流から日本文化への関心をさらに深めたキーン氏は、戦後、ケンブリッジ大学で講師を務めつつ研究を深め、英国の知的選良であるブルームズベリー・グループとの交友により幅の広い知的活動を展開しました。展示では憧憬の的であった京都大学への留学の機会をえて、その後、母校コロンビア大学で教鞭をとりつつ京都そして東京で培った多彩な文壇・文化人との交友にもとづき、世界にむかって精力的に数多くの日本文学・日本文化の紹介したことを展観する予定です。

会場である当館特別展示室・ホワイエでは、このような多方面の文筆研究活動とともに、ニューヨークと北区西ケ原での人々との交流の姿を追いながら、キーン氏の明るいお人柄と繊細かつ構想力に優れた著作の数々を、パネルを通じて分かりやすく展示します。またキーン氏所蔵の未公開写真や書簡・原稿のほか、株式会社ブルボンのご協力によって可能となったニューヨークの書斎で使用したキーン氏の椅子などの実物資料も出展されます。さらにコロンビア大学C.V.スター東亜図書館所蔵の貴重なキーン氏宛ての川端康成・谷崎潤一郎・三島由紀夫・安部公房の書簡パネル展示も列品しますので、文豪たちの飾らぬ人柄とキーン氏との交友を知る必見の資料となると思います。

東日本大震災をきっかけに日本永住を決意し、日本と日本の人々を心から愛するキーン氏の業績をぜひ、この機会にふれてみてはいかがでしょうか。（石倉）

書斎のドナルド・キーン氏（2000年頃）

「碧い眼の太郎冠者」としてのドナルド・キーン氏（1956年）

● イベントレポート ●

「始動！ 野外講座『新・遺跡探訪』サポーターの会」

Event Report

「車が通りま～す」「片側通行でお願いしま～す」。当館の外歩き講座ではお馴染みの一コマ。道すがら黄色い旗を持った当館学芸員が列の前後から、安全確認の掛け声をかけます。しかし昨年11月に実施した「新・遺跡探訪」では、なんと列の中ほどからも声がかかりました。そう！サポーターの会のみなさんです。今年度は、これまでの考古系野外講座はほぼ皆勤賞！遺跡歩きはおまかせ！という方々に、試験的にサポーターとなっていただき、準備段階から当日に至るまで、講座づくりにご協力いただきました。

いつも野外講座を企画するにあたって一番悩み苦しむのがコース決めです。内容の面白さ、現地での移動距離などを考えると、なかなかすんなりとは決まりません。来館者にアンケートをとってみてはいかがかなとも考えてしまうほど。ならばいっそのこと、みなさんと講座づくりができればと、今回の試みとなったのです。

今年度はお試しということもあって、私から前もって探訪先候補を３つ提示したうえでサポーターに収集していただいた情報をもとに、ときには探索範囲を拡大してみながら、すべてのコースを踏査してみました。約２ヵ月間の格闘を経て、最終的に１コースに決定し、晴れて講座開催の運びとなったのでした。本格的な活動にはまだまだ試行錯誤が必要ですが、来年度以降も継続し、少しずつ形にしていけたらなと考えています。（安武）

神光寺横穴墓群を実見中

資料紹介　「人造バターのホーロー看板」

ここにあるのは、区内の酒屋さんから寄贈された宣伝用のホーロー看板です。看板には、「リス印純良人造バター販売店」と書かれています。リス印の人造バターは、古河合名会社（西ケ原の旧古河庭園に名前の残る古河家の会社）が設立した旭電化工業（設立時は東京電化工業所）が、昭和４年（1929）から製造を開始した製品です。さて、「人造バター」ってなんでしょう？実はこれ、マーガリンの事です。マーガリンは、植物油や魚油・牛豚の脂に食塩等を加えて乳化させた加工食品で、皆さんの食卓でもおなじみかと思います。マーガリンの歴史をたどると、ナポレオン３世にまで行き着きます。19世紀、ナポレオン３世がバターの代用品を広く募集した時に、牛脂を基に造られた製品がマーガリンでした。ちなみにマーガリンは、ギリシャ語の真珠を表す *margarite* が語源とされています。日本にマーガリンが入ってきたのは明治時代で、国産のマーガリンは明治41年（1908）から製造されました。「人造バター」という名称は、本物のバターと区別するために、大正３年（1914）農商務省令で定めたものです。昭和29年（1954）に「マーガリン」と名称が統一され、学校給食の普及とともに一般に定着していきました。

（山口）

人造バター宣伝用　ホーロー看板

「リス印」マーガリンは現在も業務用で販売されています。

※上の2点の画像は株式会社ADEKA（アデカ）（旧旭電化工業）のご厚意により掲載しています。

写真に見る

あの日あの時

踊るアニさん、見るアニさん
～大正時代の飛鳥山の花見～

前年に金輪寺の周囲へ桜270本を植えたのに続いて、享保６年（1721）に八代将軍徳川吉宗が1000本の桜を植えさせて以来、飛鳥山には、桜の季節に大勢の花見客が訪れるようになりました。写真は、大正時代の花見の様子です。

桜の花びらが舞い散った地面にむしろを敷き、三味線に合わせて手ぬぐいを肩に踊る男性グループ。カメラにむけた表情が茶目っ気たっぷりのアニさん連中です。周りには、それを見物する花見客が集まっています。ハンチング帽をかぶり腕組みしたアニさん、印半纏（しるしばんてん）に股引（ももひき）穿（ば）きで手ぬぐいをかぶった職人さん、その右には洋装の若い男性が写っています。画面の左端には、近隣からきたのか、子をおぶった女性や、二人の少年の姿もあります。この少年たちが青年となってアニさんと呼ばれるようになる昭和初期には、交通手段の発達にともない、飛鳥山での花見はラッシュアワーの駅のような混雑ぶりを見せるようになります。写真の光景は、それ以前の、まだゆったりと花見ができた頃の情景です。

飛鳥山の桜の花の下では、約300年、毎年さまざまな花見光景が繰り広げられてきました。桜を眺めそぞろ歩くだけでなく、弁当をこしらえ、衣装を揃え、唄って、踊って…、趣向を凝らすのも花見の楽しみだったようです。今年の飛鳥山公園では、どんな花見光景がみられるでしょうか？　（田中）

博物館インフォメーション

【オススメ!】北区飛鳥山博物館のこの春の刊行物

・未知しらべ道しるべ　北区文化財ガイドブック

当館学芸員が北区を東奔西走！心を込めて作った一冊です。区内を7地区に分割し、各地区に所在する文化財を地図付で詳しく解説しています。この本を片手に、北区の歴史や文化を訪ね歩いてみてはいかがでしょうか。（定価400円予定）

・北区飛鳥山博物館研究報告第１４号

開館以来、毎春刊行している北区飛鳥山博物館研究報告も14号になりました。「北区関連見立番付のデータ集積と分析」「ミュージアム・ミッション形成における関係性マーケティングの位相」「「木造太田道灌坐像　附　厨子」保存修理報告」「東日本大震災による北区内の文化財被害について」など充実した内容となっております。（定価400円予定）

・春期企画展図録「発掘調査最前線 ー速報！北区の遺跡ー」

今回も企画展の図録が刊行されます。この本で北区の遺跡の最新の情報がチェックできますよ。企画展の観覧に併せての購入はいかがでしょうか。（定価500円予定）

・北区埋蔵文化財調査年報 平成２２年度

平成22年４月～平成23年３月に北区内で行われた発掘調査の報告書です。一般に頒布はしていませんが、当館閲覧コーナーや、北区立の図書館でご覧いただけます。

【コン吉ハンドタオル】新色が登場！

コン吉ハンドタオルが大好評につき、春めかしい桜色を新色として追加します。ピンクのコン吉くんに乞うご期待。

【高齢者料金導入】常設展示観覧料改定のご案内

当館では、４月１日より新たに高齢者料金を導入し、65歳以上の方の常設展示観覧料は150円となります。（一般観覧料は300円。）年齢を確認できるものをお持ちください。

【常設展示室】浮世絵展示替えのご紹介

●２ヶ月ごとに浮世絵が差し替わります！

常設展示室「名所　王子・飛鳥山・滝野川」コーナーの一角では、「描かれた名所」と題して当館所蔵の浮世絵版画を展示しています。壁面は名所の風景、展示ケース内では季節の風景をテーマに、どちらも２ヶ月ごとに展示替えを行っています。３・４月の季節の風景は、ずばり「花見」。葛飾北斎による「新板浮絵王子稲荷飛鳥山之図」などを展示します。ちなみに５・６月は「水辺」、７・８月は「納涼」をテーマに差し替えていきますので、お楽しみに！

新板浮絵王子稲荷飛鳥山之図

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

「瑠璃色の地球」という松田聖子のアルバム曲がありますが、「瑠璃」とは本来、「ラピスラズリ」という青色顔料に用いられる岩石の和名で、そこから派生する「瑠璃色」は、群青色に近い、「濃い赤味の青」という色の名です。「瑠璃（玻璃）」はまた、ガラスやガラス工芸品の古称でもあり、正倉院宝物の名称などにも「瑠璃」の文字が見られます。昨年行われた田端西台通遺跡における発掘調査で、弥生時代後期の方形周溝墓の埋葬主体部から、147点ものガラス小玉（ビーズ）が出土しました。これほどの点数の小玉がひとまとまりとなって出土したことからすると、紐に通して連ね、ネックレスとして使われていたものと考えられます。そのほとんどは濃い青色であり、まさに瑠璃の色。ガラス小玉が放つ美しさは、当時の人々の心を魅了したことでしょう。

田端西台通遺跡から出土したガラス小玉は、春期企画展「発掘調査最前線－速報！北区の遺跡－」で展示されています。いにしえに見出されたガラスの輝きを、この機会にぜひご覧下さい。（牛山）

利用のご案内

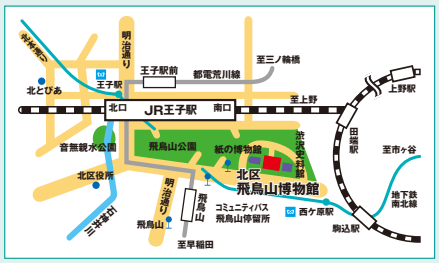
【開館時間】
午前10時から午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】
毎週月曜日
（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館）
年末年始（12月28日～1月4日）
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一　般	300円	240円	720円
高齢者（65歳以上）	★150円		
小・中・高	100円	80円	240円

★平成24年4月1日より導入



- JR 京浜東北線　王子駅南口より徒歩5分
- 地下鉄南北線　西ケ原駅より徒歩7分
- 都電荒川線　飛鳥山停留場より徒歩4分
- 都バス　草64、王40系統　飛鳥山停留所より徒歩5分
- 北区コミュニティバス　飛鳥山停留所より徒歩1分

※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

- 小学生未満は無料
- 団体扱いは20名以上
- 三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧になれます。

お　知　ら　せ

- 館内消毒にともなう臨時休館
  収蔵資料を虫害やカビから守る殺虫・殺菌処理（燻蒸）にともない、6月26日（火）から29日（金）を臨時休館日（予定）とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュース、北区公式HP等でお知らせします。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

編　集　後　記

今冬の厳しい寒さを越えて、飛鳥山の桜の蕾も膨らみ始めました。皆さんがこの“ぼいす”を手に取られた頃はもう桜は満開でしょうか。さて、前号に引き続き編集をさせていただきましたが、ぼいす28号では「展示」の裏話や展示への想いなどをまとめています。ご感想などをお待ちしています。（平澤）

平成24年度上半期の主な催し物

春［4月～6月］

- 春期企画展「発掘調査最前線－速報！北区の遺跡－」（3/17 ～ 5/6）
- テーマ展示「オボエテマスカ?－あの暮らし・この道具－」（3/17 ～ 5/27）
- 春期企画展関連事業「企画展ミュージアム・トーク」（3/24、4/8）
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物たち」（4/14、5/12、6/23）
- 春期企画展関連講演会「掘った人が話す遺跡ア・ラ・カルト」（4/15・4/22全2日）
- 野外講座「新緑の日光御成道をたどり歴史を訪ねる」（4/21）
- 講座「快読!江戸時代の村絵図」（4/29）
- 野外講座「碑文解読？飛鳥山公園の石碑めぐり」（5/13）
- 特別展覧会「ドナルド・キーン展－私の感動した日本－」（5/19 ～ 6/24）
- 講座「北区飛鳥山博物館バックヤード・ツアー」（5/20、6/17）
- 野外講座「探訪！『江戸名所図会』の世界」（5/26・5/27全2日）
- 講座「映像企画2012地下鉄の記録映画を見る会」（6/3）
- 講座「一緒に読み解く北区のすり物 北区の番付エトセトラ」（6/9）
- 講座「実物に触れる体験！清盛と頼朝・『吾妻鏡』の世界」（6/10）
- 野外講座「北区近郊冨士塚めぐり」（6/24）

夏［7月～9月］

- 講座「地形模型を作って調べる江戸時代の北区の村 王子編」（7/7・7/8全2日）
- イベント「夏休みわくわくミュージアム☆2012」（7/21～8/31）
  - 展示「地下鉄南北線開業20周年記念「メトロストーリー」
  - 地下鉄車庫見学会
  - 夏休み勾玉 / 土器 / 古代布づくり教室
  - 昔の手仕事にチャレンジ!～藍染／かご作り
  - 牛乳パックで行燈をつくろう
  - 昔のおもちゃを作って遊ぼう
  - 夏休み☆はくぶつかん探検ツアー　ほか
- ミュージアム・トーク「常設展示の宝物たち」（7/28、8/25、9/8）
- 3館まとめてクイズラリー～めざせ!あすか山クイズ王（飛鳥山3つの博物館合同イベント）（8/9）
- 野外講座「貸切都電に乗って知る、江戸文人の逍遥と近郊の名所」（9/1、9/2）
- 野外講座「探訪！押さえておきたい、北区のツボ・赤羽駅前ノスタルジックの巻」（9/16）
- 特別展覧会「第11回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」（9月中旬～10月中旬）

※催し物名は仮称、（ ）内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、HP をご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより
ぼいす28
発　行　日　平成24年3月20日
編集・発行　北区飛鳥山博物館
〒114-0002　東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
印　　刷　羽陽美術印刷株式会社

刊行物登録番号　23-2-070